

## ● 症例8

## 喘息

患者：謝○，男性，17歳，高校生

主訴：喘息発作，半月

現病歴：幼いときから喘息で，冷気にあたると発作が起きる。ここ半月ほど，発作が頻繁になっている。現在では激しい咳嗽喘息と呼吸困難・喉で痰によるグル音がする（中医学では「喉中水鶏声」という）。胸部膨満感・仰臥不可。喀痰の状態は多量で稀薄・白色でしかも泡立つ。寒さを嫌う。四肢の冷え・顔面蒼白。

舌診：舌質淡紅・苔白潤

脈診：弦緊

投薬：アミノフィリン・エフェドリン・コルチゾンなどを服用したが，あまり効果がなかった。

定位：肺・腎とする。

肺……本症例にみられる咳嗽・喘鳴・喀痰はみな肺病の主証である。

腎……幼いときから寒さを嫌う。四肢の冷えがある。

定性：①痰飲：稀薄・白色・泡沫・痰を吐く。

②陽虚：寒冷にあたると発作する。寒がり・四肢の冷え・顔面蒼白・舌苔白潤・澄んで稀薄な痰を吐くなどは陽虚の症候である。

弁証：寒飲阻肺・腎陽虚

治法：温肺化飲・止咳平喘・補腎温陽

方剂：①小青竜湯＋蘇子降気湯＋腎気丸

②炙麻黄6g，桂枝4g，白芍4g，炙甘草3g，半夏6g，乾姜6g，細辛2g，五味子3g，淫羊藿10g，補骨脂10g，茯苓5g 7剂

方意：本方は小青竜湯に淫羊藿・補骨脂・茯苓を加えたものである。宣肺平喘・温化痰飲・補腎固本などの作用があると考えられる。

注意事項：生ものや冷たい食物は控える。くるみの実2個と生姜3片を煮た汁を，毎日服用するとよい。